



なかまだみんな

横浜市立中和田南小学校

電話 802-0979

学級はおでん鍋

校長 山崎 薫

新年度が始まり間もなく一か月となります。授業中の様子をのぞいてみると、新クラスの友達や担任とだいぶなじんできた感じがします。明日からの大型連休で、一度、学校生活は中断気味となりますが、連休終了後から再び居心地のよい学級を創り上げていってほしいと思います。

さて、新学期の登校3日目である4月11日(月)の全校朝会(テレビ)で、私から子どもたちに話した内容が表題に示したタイトルです。今となっては少し季節外れかとは思いますが、よいクラスを創ってほしいということをおでん鍋に例えて話しました。

おでんにはたくさんの具材が入りますが、今(4月11日)はまだ、冷たいだし汁に浸っているだけの状態です。これからお鍋を弱火でじっくりと温めていきます。すると、それぞれの具材のうま味がだし汁にしみ出していきます。つみれ、昆布、さつま揚げなど、単品でも美味しいですが、それぞれの味がだし汁の中に混ざってだし汁はさらにおいしくなっていきます。一方、大根、こんにゃく、はんぺん、ちくわぶなどは、始めはあまり味はありません。ですが、だし汁に浸っている間に、それらの具材は少しずつだし汁を吸いこみ、柔らかくおいしくなっていきます。いつしかすべての具材は互いのおいしさを共有して、おいしいおでんが出来上がります。

一つ一つの具材は、いわば皆さん一人ひとりです。それぞれのうま味をだし汁に出すということは、皆さんがもっているよさをクラスの中でどんどん発揮して、お友達が喜んだり感謝の気持ちをもったりできるような雰囲気を作っていくということです。少しずつだし汁を吸い込み柔らかくおいしくなるということは、その雰囲気の中で友達のよさや親切な気持ちに気付き、刺激を受けて見習ったり協力し合ったりしようとして成長することを指します。

教室というお鍋の中で、おいしくなっただし汁という雰囲気の中で、弱火でじっくり一年間かけてよいクラスにしていましょ。そして、煮込んでおいしくなった一つ一つの具材が一年間の皆さんの成長した姿です。15個の鍋がどんなおいしいおでんになるか楽しみにしています。このような伝え方で子どもたちに話してみました。

同学年の友達同士が関わり合い、話し合い、互いに刺激をシェアするという日々の行為の連続は、相手の表情やしぐさを観て気持ちを感じ取るという感覚の高まりにつながっていきます。また、相手意識が芽生え、社会性が育っていきます。それが学齢期の子どもにとって大切な経験であると思います。それゆえ、前向きな思いや目標を共有するような集団作りの大切さを感じます。

だし汁を温める役目は私たち教職員です。強火で早く温めればよいというものではないでしょう。即効性を求めすぎると、煮崩れたり破裂したりしてしまう危険があります。行きつ戻りつ、時には停滞しつつもじっくり粘り強く関わっていくように努めてまいります。

新学期開始後、登校した1年生の身の周りの手伝いを6年生が交替で行っています。6年生が腰をかがめながらランドセルの中身を机に入れてあげる姿を観て、決して一朝一夕で出来上がったものではない心身の5年間の成長の大きさを感じています。今から5年後、今の1年生の子たちが6年生になり、優しく未来の1年生を手伝う姿を観たいです。

それでは、感染に十分留意され、連休をお過ごしください。